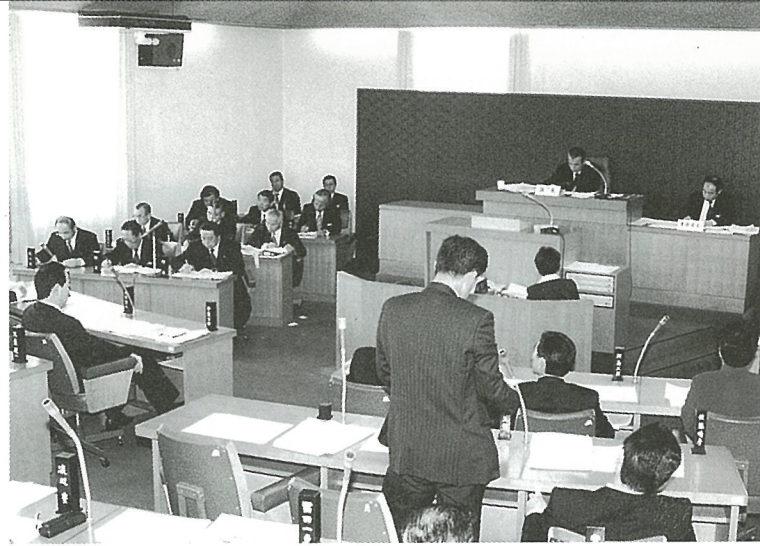


12月定例町議会（一般質問）

などで 論議



12月9日から17日までの9日間にわたって開会された12月定例町議会では、3名の議員から7項目にわたって質問が行われました。その主な内容は次のとおりです。

中学校建設問題

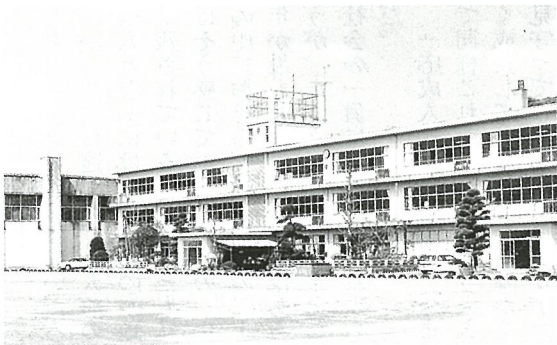
問 ①中学校建設計画についての進捗状況は。②建設予定地の買収等はいつごろになる予定か。

③中学校建設事業は近年にない大事業であり、建設場所等の決定については、町民の意見を広く聞くための「聴聞会」等を開催して決めるべきだと思うが。④次期推進委員会の予定は。⑤学校移転後の跡地の処分方法や庁舎建設との関係についてはどのように考えているのか。

答 ①中学校の移転建築については、平成8年度に中学校建設推進委員会を設置し、建設場所等の検討を進めてきたところであり、昨年11月に開催された第7回目の委員会において、それまで検討対象となっていた4箇所の候補地のうち、給食センター裏側区域を第一候補地として内定した。その後、関係地区で説明会などを開催し、地権者のみなさんご意見を伺いながら話し合いを進めているところである。今後は、町の買収予定価格を示す必要があるということで、現在は、不動産鑑定を実施するなど価格設定のための準備を進

めている。②用地の取りまとめについては地権者のみなさんのご意向もあり、簡単にいつごろとは言えないが、平成12年度中には、何とか土地の方向づけをしてまいりたいと考えている。

③住民意見を聞く会を開催ことは大変結構なことであると思うが、建設予定地については、今までも議員のみなさんや推進委員会のみなさんご意見を十分伺いながら、給食センター裏側に内定してきたところであり、今後、特別な事情がなければ、ここを建設予定の第一候補地として話し合いを進めてまいりたい。④年度末ごろには土地の価



早期の移転建築が望まれている横芝中学校

格もある程度示せると思うので、そのころには開催したい。⑤跡地については、建設工事計画がある程度進んだ段階で、みなさんご意見を伺いながら検討してまいりたい。

農業政策

問 ①減反面積達成者と未達成者との間に格差がない現状では、今後、更に減反協力者が減少するものと思われる。町単独で達成者に助成金を出すなどの施策は考えていないのか。②平成12年度の減反比率はどれぐらいになる予定か。③町全体で転作目標面積を達成しなかった場合、北清水地域で計画されている営農組合ライスセンター建設の補助金に影響があるのか。

答 ①現在、町が実施している生産調整の促進奨励金については、転作の態様に関係なく実施面積に応じて一律10アル当たり2千円を、また、組合ごとに割り当てられた面積を達成した組合に対しては、一戸当たり千円をあわせて交付している。これは、町としての達成率を少しでも上げたいということで、未達成者に対しても、実施面積に応じて同様の奨励金を交付してきたものであるが、来年度からは国の対策も変わることで、新たに設置される水田農業推進

協議会において、水田農業振興計画の策定や農業者に対するガイドラインの配分等を行なうこととされているので、この協議会で促進奨励金等についても検討する予定だが、今後は、達成、未達成に格差をつけるなどし、より推進の図れるような施策をしてまいりたいと考えている。②減反比率、減反面積については、国が米の需給状況から全体の面積を確定し、これを各県に配分し、更に県が各市町村の水田面積等に応じて配分してくるものである。来年度の配分面積については、本年と同規模で実施することが既に大綱で決定しており、本年度と同様の配分率になるものと思われる。③国の農林関係の補助事業については、生産調整面積を達成したところから優先採択していくという指導がなされてきたが、配分率が30パーセントを超すほど高くなっている昨今では、町全体での目標面積の達成は非常に難しいと思われる。最終的には国の決定するところではあるが、北清水地区は、転作実施に関しても非常に優良な地区であり、今後予定されているライスセンター建設事業については、北清水地区だけの目標面積達成で、転作に關する採択要件はクリアできるような働きかけをしてまいりたい。